

future World

第5号



第2回進路希望調査に向けて～上級学校について知ろう～

第4号に引き続き、進路希望調査に向けて、上級学校について見識を深めていただこうと思います。ぜひ、進路選択の上で参考にいただければ幸いです。

6/3 上級学校とはどんなところだろう？ Part.2

ここでは進路通信第4号で掲載できなかった上級学校について、それぞれの特色を説明していきます。

【国立大学附属高等学校】

国立大附属高校は学費や施設面、また通う生徒の学力の高さから、学校によっては難関私立高校を凌ぐ人気があります。国立大附属は特色があり、授業では、例えば、生徒に課題を出して調査をさせ、その調査結果をレポート等にまとめ、発表させるといった機会を多く与えています。その発表に対して生徒同士で議論をさせ、さまざまな意見があることを学ばせます。ただ、国立大附属は公立や私立進学校のような大学受験のための講習や補習はありません。そもそも国立大附属は進学校ではありません。大学受験を意識した補習や夏期講習など、予備校のようなサポートは期待できません。また、指定校推薦などで本家の国立大学へ進学しやすいということもありません。

名古屋大学附属、愛知教育大学附属

【国立工業等専門学校】

国立工業等専門学校は、愛知県には豊田市にある「国立豊田高専」のみとなります。5年間の一貫教育を行うということも他の学校との大きな違いです。最先端の専門的な技術知識を習得し、世界で活躍できるグローバルな技術者を育成しています。県内屈指の難関校であり、高い就職率を誇り、毎年多くの企業から求人がきます。教師は、大学教授や大学教員の方もいます。また、編入学制度を利用することにより卒業後に大学3年へ編入学することも可能であり、ほぼ半数の学生は国立大学（名古屋大学、名古屋工業大学、豊田工科大学等）の工学部または専攻科へ進学していきます。

豊田高専

【定時制・通信高校】

一般的な高校の仕組みとして知られる全日制高校以外にも、高校には通信制と定時制があります。いずれも私立と公立があり、同等の教育水準や教育内容が設けられています。履修形態は異なりますが、高校卒業資格が取得できる点も同じです。

通信制と定時制の修業年数は3年または4年以上とされています。また、どちらも夜間に授業を行う学校があり、年配の方から、主婦や仕事をしている人まで、さまざまな方が通っています。さらに、多くの学校で単位制を採用しています。そして、技能連携制度を活用することも双方に共通しています。専門技術を技能連携校で学ぶことができ、その学習内容が単位として認められていることは、全日制の高校にはない大きな特徴といえます。

例：中央高校、旭陵、城北つばさなど

【高等技術専門学校】

高等技術専門学校は、各都道府県が運営している公共職業能力開発施設のことです。学校を卒業して新たに就職を目指している方や、求職者（離転職者）を対象に、就職に必要な知識や技能を習得するための実技を中心とした職業訓練を実施します。学費が安く、就職率も高いのが特長ですが、「学校」ではないので、学歴（高校卒業）にはならない点は留意しなければいけません。もしも高等技術専門学校を志望する場合には、ハローワーク（職業安定所）を通しての受験となります。

例：名古屋高等技術専門学校など